

令和4（2022）年度 学校評価報告書

令和5（2023）年8月

成城学園学校評価委員会

令和 4 (2022) 年度学校評価報告について (序文)

学園長 戸部順一

成城学園では、平成 19 年の学校教育法改正によって高等学校以下の各学校と幼稚園に対し、学校評価の実施が義務づけられたことを受け、平成 20 年度から平成 26 年度に至る 7 年間に、年度ごとの学校評価を行ってきました。その後、平成 29 年度の実施を最後に、令和 4 年までの 5 年間、学園としての全体的な取り組みは休止状態にありました。ある程度の期間をあけて評価する方が学園の抱える問題点が鮮明になるとの考えに、コロナ禍という異常事態が加わった結果の中断です。とまれ、ここに 5 年ぶりの学校評価報告をお届けいたします。今回はこれまでに行ってきた、(各校の学校評価をまとめた) 冊子の配布は行わず、ホームページ上での公表—評価報告のより広範な周知を目指したためです—とさせていただきますが、学校評価の仕組み自体に大きな変更があったわけではありません。そこで、学校評価なる点検評価活動を理解していただくために、評価の趣旨、評価を担う組織、評価の方法等について、簡単に触れておきたいと思えます。

1. 学校評価とは (その趣旨) : 各学校の教育活動その他の学校運営の状況について、学校目標¹を設定し、その達成状況や達成への取り組みについて自己評価²を行い、その結果を公表することで継続的な改善を図ることを目的とする活動を言います。

2. 学校評価を担う組織及び評価の方法 : 学校評価の組織としては、各学校が行う学校評価のためのガイドラインを定め、且つ評価結果の取りまとめを行う学校評価委員会 (学園長を委員長として、法人事務局長、中学校高等学校校長、初等学校校長、幼稚園園長及び各学校から選任された者 1 名を委員とする組織) があり、そのもとに、学校評価委員会の定めたガイドラインに基づいて学校評価を実施する自己評価実施委員会 (学校長を委員長とし、学校長の指名する者を委員とする組織) が各学校に置かれています。自己評価実施委員会は評価判断の材料となる保護者アンケート³の実施と保護者アンケート結果の分析に基づく自己評価をおこないます。さらに、この自己評価実施委員会による自己評価の結果と改善策への取り組み状況をチェックする組織として、学校関係者評価委員会 (学校長、接続学校⁴から

¹ 各学校において、単年度ごとに設定されるもので、各学校が策定した中期計画の当該年度事業計画のうちの重点事項、保護者アンケートの意見や要望のうち、重要だと判断された事項等の改善を内容とします。

² 学校長のリーダーシップのもと、当該学校の全教職員が参加して、設定した目標や事業計画に照らして、その達成状況や達成に向けた取り組みの適正性について行う評価のことです。

³ 自己評価を行う上で、保護者を対象として行われる、学校目標に関するアンケート調査のことです。

⁴ 成城学園には幼稚園、初等学校、中学校高等学校、大学がありますが、例えば初等学校

選任された者、父母の会部会長、学校長が指名した保護者を委員とする組織。委員会の委員長は学校長を除いた委員たちの中から、互選によって選ばれることになっています)が各学校に置かれています。学校関係者評価委員会の特徴は、教員と保護者から選出された委員の皆さんから構成されていることです。この組織構成は自己評価実施委員会による自己評価に対し、保護者側からの検証を可能にしており、教員側の評価に保護者側の再評価が併記されることになっています。

学校評価報告は、自己評価実施委員会による保護者アンケートの結果、保護者アンケートに基づく自己評価、それに学校関係者評価委員会の評価報告書を各校ごとにまとめた体裁をとっています。当報告は教職員と保護者の協働によって作り上げられているのですが、勿論、この活動の目的は評価の報告にとどまるものではなく、その評価を真摯に受け止め、よりよい学校作りに活かすことにあります。そのためにも、学校評価報告から明らかになった学園の問題点を見つめ、その改善に努めることをお誓い、令和4年度学校報告の序文とさせていただきます。

の接続学校と言えば、幼稚園と中学校高等学校を指すことになります。

令和4（2022）年度 学校評価アンケート 中学校高等学校 自己評価について

○はじめに

2020年から続いたコロナ禍に伴い、学校内部では様々な対応を行ってきた。健康観察や昼食指導・部活動での配慮などにはじまり、授業の形態やコロナ罹患時の学習へのフォローなど、多岐にわたるサポートに追われた3年間だったと言える。またICT機器の利用に関しては、日常的に活用される場面が格段に増え、必要不可欠な道具となった。一方コロナによる様々な制限が加わる中でも、中期計画に伴う様々な試みが行われてきた。こうした変化への対応に加え、継続的な課題についてもより柔軟な対応が求められており、今回の学校評価アンケートを通して保護者の方々の理解と協力を得ながら教育活動のさらなる向上を目指していきたいと考えている。

○学校目標（第2次中期計画）

I.教育活動

(A) 国際教育

(a) 語学教育

- 1) 4技能をバランス良く伸ばすことを目的に、中2修了時に英検3級、中3修了時に英検準2級の取得を目指す。また、高2修了時にCEFR-J B1.2の英語力を身につけ、英検2級全員取得を目指す。
- 2) 英語で積極的にコミュニケーションをとる活動を充実させ、英語運用能力を身につける。また、新しい大学入試にも対応できる英語力を身につける。

(b) 国際交流

本校独自の留学プログラムを充実させ、帰国後もオンライン等を活用し、外国語の授業に限定せず、総合的な学習の時間や行事等を通じて、交流を主体的な学びにつなげる。

(B) 理数系教育

(a) 論理的思考力

課題を発見し解決する能力を育成するために、日常的な授業に加え、次の施策を展開する。

[中学]宿泊行事（中学3年）等でのPBLを主体とした取り組み。

[高校]自由研究での「SDGs講座」開設。

これらの中で、事前学習、企画力の育成、Zoom等での交流、現地調査と触れ合い、事後発表、継続的な交流を行う。

(b) デジタルスキル

- 1) 協働学習の場を拡張することを目的として、教科、特別活動で生徒にデジタル機器を活用させる。その際、個々の生徒の活動の成果を蓄積すること（ポートフォリオの作成）や広く発信できるようなデジタルスキルの定着にも重点を置く。
- 2) 学校行事等、機会あるごとに生徒を主体としたGoogle Formsでのアンケート調査を行い、それらを分析しつつ、改善につなげる。
- 3) 情報モラル教育を拡充する。

(c) 科学教育・環境教育

- 1) 理系の専門の研究者を講師に招いての「サイエンス教室」の継続実施・企画内容の充実、さらに新設

された「恐竜・化石ギャラリー」の活用等を通して、生徒の科学に対する興味関心を高める。

- 2) ICT を利用した数学教育の充実、理科実験教室を活用したカリキュラムの構築、理数コース（高2、
- 3) 向けカリキュラムの充実と、新しい課外教室を企画・設置する。

(C) 情操・教養教育

- 1) 生徒の学びの集大成となる発表や演奏会等、各教科における表現活動の場の充実。
- 2) デジタルスキルを活用した文化部活動における発表や発信の機会を設ける。
- 3) 生徒が主体的に関わり、各々の心身の成長に結びつくように、行事や部活動の運営方法を見直す。

II. 研究活動

- 1) 自立的な学習者を育成するための教員の授業力・指導力の向上を目指す。
- 2) 社会の変化を見据えた教育のあり方を常に模索し形にできるよう、研究会・研修会の充実を図る。

III. 社会連携活動

ボランティア活動等を通じた、地域や他校との連携の拡大。

IV. 教育環境整備

- 1) PBL（課題解決学習）や Active Learning を積極的に取り入れるための特別教室の整備。（グループワークをかなえるための机、椅子等）
- 2) 教育 ICT の導入における「SAMR」モデルの「Modification（変容）」「Redefinition（再定義）」のレベルを充実させるための、アプリケーション等周辺環境の整備。

○学校評価アンケート

- I 実施期間：2023年1月12日～1月27日
- II 対象：中学校高等学校 全保護者 「ウェブでお知らせ」にて配信
- III アンケート項目（中学校高等学校共通）

下記 Q1～Q22 について、調査対象者が重要度と満足度について回答する。

重要度 ①たいへん重要 ②やや重要 ③あまり重要でない ④重要でない
満足度 ①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない

とくに、満足度を中心に上記①を4点 ②を3点 ③を2点 ④を1点として集計した。

- Q1 学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。
- Q2 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。
- Q4 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。
- Q5 学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。
- Q6 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。
- Q7 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。
- Q8 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、カウンセラー等と相談できる。
- Q9 感染対策を含めて、学校（幼稚園）内における安全が、十分に守られている。
- Q10 上位学校（例：高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。
- Q11 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。
- Q12 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。

- Q13 お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。
- Q14 特色ある教育活動が行われている。
- Q15 生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。
- Q16 学校では、高2までに「英検」2級を取得することを目指し、それに向けての学習活動が行われている。
- Q17 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。
- Q18 学校は、日々の教育活動で、ICT機器を積極的に活用した授業を行っている。
- Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目にて、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。
- Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。
- Q21 学校では、コロナ禍において感染状況に配慮したオンライン授業等の教育活動が行われている。
- Q22 本学園の良さを学外の人に伝えたい。
- Q23 学校をより良くするためのご提言があれば、ご記入ください。

IV 集計結果より

1) 回答数（カッコ内は在籍者数）

中1	196 (241)	中2	196 (244)	中3	176 (235)		
高1	242 (283)	高2	206 (276)	高3	211 (275)	合計	1227 (1554)

2) 集計結果 (満足度)

No.	質問項目	満足度得点	中1	中2	中3	高1	高2	高3
Q1	学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。	3.18	3.14	3.18	3.14	3.09	3.21	3.33
Q2	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。	2.83	2.81	2.80	2.80	2.73	2.80	3.03
Q3	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。	2.78	2.73	2.76	2.65	2.71	2.80	3.00
Q4	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.52	3.34	3.44	3.60	3.52	3.59	3.63
Q5	学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。	2.99	2.78	2.94	2.86	2.98	3.13	3.22
Q6	学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。	3.31	3.37	3.28	3.31	3.24	3.31	3.39
Q7	お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。	3.51	3.52	3.43	3.52	3.46	3.53	3.59
Q8	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、カウンセラー等と相談できる。	3.07	3.04	3.01	3.03	3.00	3.13	3.20
Q9	感染対策を含めて、学校（幼稚園）内における安全が、十分に守られている。	3.44	3.39	3.42	3.41	3.39	3.46	3.55
Q10	上位学校（例：高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。	2.91	2.63	2.59	2.72	3.09	3.15	3.18
Q11	学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。	3.13	3.02	3.06	3.01	3.15	3.17	3.32

No.	質問項目	満足度得点	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
Q12	学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。	3.03	2.94	2.93	2.98	3.02	3.14	3.18
Q13	お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。	3.24	3.24	3.21	3.17	3.28	3.28	3.22
Q14	特色ある教育活動が行われている。	3.05	3.05	3.05	2.86	2.98	3.15	3.22
Q15	生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。	2.73	2.56	2.67	2.63	2.71	2.79	3.00
Q16	学校では、高2までに「英検」2級を取得することを目指し、それに向けての学習活動が行われている。	2.87	2.79	2.82	2.78	2.87	2.84	3.11
Q17	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。	2.82	2.78	2.80	2.81	2.78	2.76	2.96
Q18	学校は、日々の教育活動で、ICT機器を積極的に活用した授業を行っている。	3.01	2.94	2.92	3.01	3.02	3.09	3.08
Q19	学校では、数学、理科、情報等の科目にて、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。	2.65	2.59	2.59	2.64	2.64	2.65	2.80
Q20	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.63	3.68	3.64	3.62	3.58	3.56	3.68
Q21	学校では、コロナ禍において感染状況に配慮したオンライン授業等の教育活動が行われている。	3.16	3.05	3.14	3.05	3.11	3.23	3.36
Q22	本学園の良さを学外の人に伝えたい。	3.29	3.24	3.25	3.23	3.28	3.32	3.42

3) 重要度が高く、満足度が相対的に高い設問について

Q4 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。3.52

Q7 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。3.51

Q11 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。3.13

Q13 お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。3.24

Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。3.63

▶上記 5 項目の質問内容のうち Q4、Q7、Q13 が、学校生活全般の中で、生徒の主体的な活動に光が当たるものであることについては、自主性を重んじた活動の状態が良いことを示しているものと思われる。同時に、保護者にとって実際の姿に触れられる機会が多いものである点から、評価値が高くなっているとも考えられる。Q11 については、機器利用のガイドラインに関して、保護者との協力関係の構築に時間を使ってきた成果かもしれない。また、施設設備の利用に関する Q20 については、教育環境の力を最大限に発揮しつつ、整備を重ねていく必要がある。

4) 重要度が高く、満足度が相対的に低い設問について

4-1) 全学年を通じて評価値が低いもの

Q2 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。2.83

Q3 学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。2.78

Q8 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、カウンセラー等と相談できる。3.07

Q15 生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。2.73

Q17 学校は、英語 4 技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。2.82

▶上記 5 項目うち 4 つの質問内容が、授業、教育活動である点を重く受けとめている。個々の学習活動、授業内容についてのリフレクションと、保護者への発信という二つの課題に取り組む必要があるだろう。さまざまな授業形態を柔軟に取り入れ、激変する社会に対応する教育の在り方を考える機会を持つことが大切である。同時にポストコロナの課題として、これまで途絶えていたが、保護者の方にも授業の様子に触れてもらう機会を積極的に作っていききたい。Q8 については、それほど評価値が低いわけではないが、生徒の保健室利用などの点においてはコロナ対応に忙殺される状況だったこともあり、時間的かつ人間的な制約が生じていたのかもしれない。

4-2) 4-1)に加えて、中学で、相対的に評価値が低いもの

Q10 上位学校（例：高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。2.91

Q12 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。3.03

▶上記2項目では、とくに低学年（中学校段階）での評価値が低い傾向がみられる。Q10については、高等学校から大学への進学について、成城大学についての情報と進学の仕組みはもちろんのこと、他大学への進学に関する学校のサポート体制についても早めに情報提供をする必要があるだろう。この点については、今後何らかの検討を行いたい。さらにQ12については、情報リテラシーという形での取り組み（Q11）は比較的高い評価を得ているものの、やはり低学年での評価値が低い点などから、中学生への細やかなかわり方を教職員全体で考えることが大切であろう。

5) 各質問項目について

Q1学校は、父母の会との連携を進め、その声を学校活動に反映できるよう努力している。3.18

▶全体の評価値は低くなく、とくに中学3年、高2・3年で高い傾向がある。父母の会との連携は、関わっていただく父母の委員、さらに協議委員を通して行うことが多く、行事等を通じて参加頻度が高くなることと連動して、連携の深まりが見られるようになると考えられる。一方で、個別ではなく種々の意見を共有できるようにしていきたい。

Q2学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。2.83

▶この項目については、高3を除き、評価値が相対的に低い傾向がある。高校3年生では、おもに大学進学という目標が設定され、それぞれの学問の入口を示していることが、学ぶ意欲につながっていると考えられる。大学付属校において入学段階から生徒の学ぶ意欲をどのように引き出していくかは、本校が長く抱えてきた課題である。テストのための授業ではなく、それぞれの内容が面白い、楽しいと感じられるようにしていく工夫をさらに積み重ねることが大切である。また、授業の趣旨や学習目標を保護者に発信していくことも必要である。

Q3学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。2.78

▶Q2同様、高3を除き、評価値が相対的に低い傾向がある。個々の学習状況に対するリフレクションは、学期ごとの面談において丁寧な指導がなされているが、より具体的な把握と建設的なアドバイスができるような方法を探る必要がある。この項目についても、比較的高校3年生における評価値が高いので、学習の目標設定という点をヒントに他学年の改善を考えていきたい。

Q4お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。3.52

▶全学年に渡り評価値が高い傾向がある。学校生活の基本となる同級生との関係が、コロナ禍での制限が薄れていく中で全般的には明るく安定したものとなっていることが伺える。細かく見ると、相対的には中1・2年より中3が、高1よりも高2・3年で高くなることから、学年が上がるにしたがってより関係性が深まっていると考えられる。

Q5学校は、普段の授業の他、行事や学校公開などを通してお子さんの学校生活の様子が分かるようにしている。2.99

▶コロナ禍の密を避けるため、従来行われていた授業参観ができなかったことはまことに遺憾であった。学習活動を保護者の方に見ていただくことは本校の教育への取り組みについての理解と協力をいただくうえで非常に重要である。行事の見学についてもこれまでは人数制限を余儀なくされたが、今年度以降、状況に応じて機会を増やしていきたいと考えている。

Q6学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。3.31

▶全般的に評価値が高くなっている。飛翔祭、文化祭、合唱コンクールといった行事が、生徒にとって日頃の活動の良い発表の場となっていること、またその活躍が、コロナ禍で見学に制限が多かったにもかかわらず、保護者の方々から理解を得られていることは喜ばしい限りである。

Q7 お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行事に積極的に参加している。3.51

▶生徒の積極的な参加という点でも、かなり高い評価値を得ている。生徒による自主的な取り組みが家庭においても評価されている点を考えると、行事運営などの方針は継続していくことが必要だと思われる。

Q8 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、カウンセラー等と相談できる。3.07

▶コロナ禍による学校全体としての臨時的な対応が重なり、教員・養護教諭に対して気軽に相談できるような時間と場の設定が難しくなっていたことは大きな課題であった。可能な限りコミュニケーションをとるように心がけていたが、さまざまな制約がある中でままたまらない場面もあったかと思われる。今後は気軽に相談してもらえよう対応したい。

Q9 感染対策を含めて、学校（幼稚園）内における安全が、十分に守られている。3.44

▶コロナ禍においては、状況に応じて様々な形態の対応を取ってきた。朝の健康チェック、昼食指導、自動検温器の設置などの日常生活に関するものから、宿泊行事の運営など、非常に気を使い苦労した場面も多く経験してきた。その点で、概ねよい評価を得られたことには勇気づけられる。ポストコロナにも生かしていける経験を失わないようにしたいと考えている。

Q10 上位学校（例：高等学校→大学）に関する情報提供は適切にされている。2.91

▶質問項目の例が「高等学校→大学」となっていたため、中学での評価値がかなり低く出ている。大学進学に関するガイダンスや推薦基準の説明などは高校入学後に行われるもので、とくに高校1年生の2学期に行われるコース選択の際が大切なポイントとなっている。この前倒しが適切かどうかも含めて検討していく必要があるのかもしれない。

Q11 学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われている。3.13

▶コロナ禍によるICT機器利用の頻度が高まる中でいくつかのトラブルが生じているが、その一方で「スマホ」「授業iPad」利用については、きめ細かなガイドライン（誓約書）が、生活部、研究部より示されている。こうしたガイドラインの浸透がある程度理解されていることが、評価値が比較的高くなったことと連動していると考えられる。とくに中学生より高校生の評価値が高い傾向にあり、経験を重ね、利用が深まっていく中で、自覚ができるようになっていくと思われる。

Q12 学校では、他者を思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーの向上に関する指導が行われている。3.03

▶Q11 に比べると、わずかではあるが低い評価となっている。他者への思いやり、迷惑をかけないようなモラルとマナーについては、登下校指導をはじめとして生活部を中心にきめ細かく行っているが、なかなか目立つ成果は上がりにくいのが現状である。行事や部活動など課外活動において協力することや他者を理解することを身につけてもらうよう指導しているが、今後もこのような地道な指導を重ねていく必要がある。

Q13 お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に運営されている。3.24

▶部活動に参加している方へという限定の質問ではあったが、評価値はそれほど低くなっていない。クラブ活動は全般的には適切に運営されているものと思われる。やや細かい点ではあるが、クラスにより評価値のバラツキが生じる要因については不明である。

Q14 特色ある教育活動が行われている。3.05

▶この項目も評価値は低くないが、相対的に中1～高1が低く、高2・3の値が高くなっている。高校生として活動するようになると、その経験から特色に気づく場面が多くなるものと考えられる。本校において伝統的に行っている教育活動などについては、在校生や保護者が他の学校と比較しにくい状況があるのかもしれない。今後、こういった教育活動の成果をより意識させていくようなはたらきかけが大切になってくると思われる。

Q15 生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行われている。2.73

▶この項目について評価値が低い点は、本校にとって大きな課題であると思われる。とくに、探究的な学習活動が不足している状況を示していると考えられる。この点では、本年度から実施される高校2年生対象の「ゼミナール」を新カリキュラムの実施と合わせて進めていきたい。また、本年度から始まる「SAIL」は中学1年生から高校3年生まで学年の枠を取り払い、大学や社会と連携するプログラムである。これらの活動を通してさまざまな学びのスタイルを学校全体で模索していきたいと考えている。

Q16 学校では、高2までに「英検」2級を取得することを目指し、それに向けての学習活動が行われている。2.87

▶ここ数年非常に力を入れてきた取り組みであるが、満足度の評価値がやや低だけでなく、同時に重要度も低くなっており、資格の取得についてはそれが副次的なものであると捉えられているように思われる結果となった。次のQ17の結果と合わせて、英語教育に関する本校の方針を発信し、保護者の理解と協力が得られるようにしたいと考えている。

Q17 学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた教育活動を充実させている。2.82

▶英語4技能の伸長については、英語・外国語科の教員を中心に議論を重ね、改善に向けて進め今に至っている。その点を考えると、もう少し評価を高くしたいところである。英語は技能的な側面も強い教科であるが、本校では英語を使った思考力の育成も目指しており、その方針と取り組みについて、よりわかりやすく保護者に伝えるようにしていくことが必要なのかもしれない。個々の生徒の技能の向上を可視化する工夫も必要だと思われる。

Q18 学校は、日々の教育活動で、ICT機器を積極的に活用した授業を行っている。3.01

▶コロナ禍前に比べると、格段に利用が高まっていると思われるが、想像とは逆に「授業」に限定された状態ではこの質問項目への回答の評価は高くならなかった。iPadの利用については、生徒にとって非常に身近なごく当たり前の道具となっているので、現状ではもはや積極的に活用しているとは映らなくなっているのかもしれない。より効果的な使い方については、今後の課題としていきたい。

Q19 学校では、数学、理科、情報等の科目にて、科学的思考力・表現力を高めるための教育活動が行われている。2.65

▶この項目については、評価値も2.65（満足度）と低く、同時に重要度も低い結果となっている。文理融合の学びが重要視される中で、科学的思考力をどのように育成していくか、教科の枠を超えて議論する必要があるだろう。中学校での理科における実験観察の重視など、考察の機会を重ね科学的思考力を高める授業も展開されている。他教科での取り組みと合わせてカリキュラムマネジメントをする必要がある。

Q20 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。3.63

▶きわめて高い評価を得られた項目である。とくに、全学年ともに、今の学校の設備・施設はとても充実したものとして捉えられている。こういった評価を活かしていけるよう、活用方法については、今後も継続して工夫していきたい。

Q21 学校では、コロナ禍において感染状況に配慮したオンライン授業等の教育活動が行われている。3.16

▶このアンケートを取った時点ではすでに休校などの大規模なオンライン授業は行われていなかったが、それでも学級閉鎖などの折にオンライン授業は活用された。今後の備えとして、この経験が生きるようにしていきたい。

Q22 本学園の良さを学外の人に伝えたい。3.29

▶この項目についても、全学年にわたり比較的高い評価値を得ることができた。とくに高3年では高く評価していただいた傾向もあり、とても喜ばしいことである。

V まとめ

評価値が低い項目の中に、いわゆる学習活動に関するものがあつた点については、具体的な対応策を考えていく必要がある。とくに、Q2（学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。） Q3（学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目指せるような教育活動が行われている。）については、現在取り組んでいる「評価方法の検討」との関連が大きく、いわゆる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」を、本校の各教科において、学ぶ意欲につなげていくための改善が引き続き必要になっていることが示されている。これ以外にも、「探究的」な取り組みについても、高2・3年生で実施される新科目「ゼミナール」や課外活動「SAIL」などを軸に、これらにつながるような授業を充実させていくことが求められていると考えている。

一方で中学校と高校での結果を比較すると、高等学校、とくに高2・3年生で評価値が高くなっている傾向（評価値が低い項目の減少）がある。6年間の流れの中で、生徒の自主性を重んじた活動が、成長とともに形になっているのであれば嬉しい。本校の教育活動への理解が深まることが、学校や自己に対する肯定感へとつながり、内在する力を引き出せるようになっていくことを願うばかりである。

以上

学校関係者評価委員会 報告

成城学園中学校高等学校 学校関係者評価委員会は、令和 4 年度 成城学園中学校高等学校 学校関係者評価の結果を以下の通り報告いたします。

§ 1

Q①「重要度が高く満足度が高い項目」について

No.	質問項目	満足度得点	中 1	中 2	中 3	高 1	高 2	高 3
Q4	お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。	3.52	3.34	3.44	3.60	3.52	3.59	3.63
Q7	お子さんは、文化祭、運動会（体育祭）、校外学習などの学校（園）行	3.51	3.52	3.43	3.52	3.46	3.53	3.59
Q11	学校では、情報モラルに関する情報提供ならびに適切な指導が行われて	3.13	3.02	3.06	3.01	3.15	3.17	3.32
Q13	お子さんが部活動に参加している方へ：学校では、クラブ活動が適切に	3.24	3.24	3.21	3.17	3.28	3.28	3.22
Q20	学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.63	3.68	3.64	3.62	3.58	3.56	3.68

A：

Q4、Q7、Q13 に於いて満足度が高い事は非常に喜ばしく、子どもたちが学校生活を楽しく有意義に過ごしている事は、ある意味最も重要だと思います。

上記 3 点は物理的に改善してどうにかなるという類のものではなく、学校生活を送る中で子どもたち自身が実感している事であり、良い友人関係を築けている中で行事や部活で生き生きと過ごしている事は何よりも大切ではないでしょうか。

Q11 の満足度が高い点については先生方の日頃のご尽力の賜物だと存じ、感謝を申し上げます。

世の中は情報に溢れており、情報倫理を守りながら他人に害を加えない事は勿論、自分がトラブルに巻き込まれないよう危機感と回避する為の知識を持つておく事、その術を提供して頂く事は大変重要だと思います。

引き続きのご指導の程お願い致します。

学校の施設・設備、学習環境面に於いては中高に訪れる保護者は勿論、学校見学にいらっしゃる方々からも多くのご意見を聞くところであり、その殆どが環境設備の充実にお褒めの言葉を頂いています。

この環境の中で学びたい、学ばせたいと思って頂く事は大変大切であり、その様な恵まれた環境の中で学んでいる在校生、保護者の満足度が高い事は大変納得出来る結果だと思います。

B：

中高の校風や設備等のハード面についての満足度が高いことは、世間一般の成城学園のイメージと合致するものであり納得できます。明るく自由な校風が好ましいと思われている証拠だと思います。

C：

多くの保護者が、行事や学校生活に意欲的な成城生のイメージを持っていることが伝わり、子どもたちの明るいチカラが溢れている姿が想像できます。

モラル面が若干低得点なのは、服装についてもあるかと推測。

澤柳政太郎の「男子たるもの紳士であれ」という思想があり、男子の制服の規定につながっていると聞いたことがあります。そんな由来や学校の理念、意図するところが保護者に伝わればと思います。

伸びやかで自由な校風、個性が尊重される成城は、自分で考え、行動する自主性や自立を育む教育を実践されているのだと解釈しております。

D：

学校は社会に出る前に『集団生活』を身につける場。『集団生活』とは『社会性』と言い換える事ができるでしょう。これは人生を有意義に過ごす為の一番大切な要素。だからこそこれらの質問は重要度が高いとカテゴリー化されており、そこに対して評価が高いと言うのは学校としての真価が認められていると言うこと。今後とも変わ

らずあってほしいです。成城の強みですね。

E :

学校での友人関係については、中学、高校ともに学年を経るにしたがって上昇することが素晴らしいと思う。また、イベント、部活動に対する満足度も高く、友人とともにイベントや部活動を楽しんでいる様子がうかがえ、「青春」を謳歌しているというイメージが伝わってくる。またそれを支える物理的環境である施設・設備についても、全ての学年ともに高水準である。このように、基本的に生徒たちが中学での生活・高校での生活を満喫している様子がこのアンケートから伺われる。

F :

子どもどうしの関り、子どもどうしが関わる活動に関しての満足度が高いことが全ての年代に関して見て取ることができる。しかし、満足度が高い項目の中でも情報モラルに関する項目については、中学校年代と高校年代では満足度に差があることが分かる。

Q②重要度が高く満足度が低い項目

No.	質問項目	満足度得点	中1	中2	中3	高1	高2	高3
Q2	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれて	2.83	2.81	2.80	2.80	2.73	2.80	3.03
Q3	学校では、お子さんの学習状況に応じた目標設定がされ、学力向上を目	2.78	2.73	2.76	2.65	2.71	2.80	3.00
Q8	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、カウンセラ等と相	3.07	3.04	3.01	3.03	3.00	3.13	3.20
Q15	生徒が自ら課題を見つけ、それを解決していく力を育む教育活動が行わ	2.73	2.56	2.67	2.63	2.71	2.79	3.00
Q17	学校は、英語4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」の伸長に向けた	2.82	2.78	2.80	2.81	2.78	2.76	2.96

A :

子どもの心身の健康についての相談を先生方、養護教員、カウンセラーの方々に『気軽に』相談出来るとなると、ハードルは高いように思います。

相談にのって頂く以前の段階で、どうしたら担任の先生や部活の先生、養護教諭、カウンセラーの方々と面接出来るのかという基本的な所で躊躇されるケースをよく耳にします。

カウンセラーの方に関しては、いつどこで、どなたが担当してらっしゃるのか、ほぼ認知されていないと思われ、告知の工夫が必要だと思います。

また、少し論点が逸れますが、中高全生徒を見守って頂くには養護教諭の人数が足りないと個人的に感じます。コロナ禍に於いては、24時間メールでの対応をお引き受け下さっており、想像以上の激務であったと推察致します。養護室のご負担を軽減する為にも、増員をご検討頂けると有難いです。

学力の向上や学ぶ意欲を引き出す授業・指導が行われている、生徒自らが課題を見つけ解決していく力を育む等々について満足度が3.0を切るという結果は残念であり、他の質問事項において学年が上がる毎に満足度が上がる傾向が高い中であって、高校3年生でも低い満足度という事も真摯に受け止めなければならないのではと思います。

クラス毎に授業内容や進度の違いに関する不満の声を耳にする事も多い為、教科毎や学年毎に、しっかりとした共通認識を持って頂く事も重要であると考えます。

また、授業の質の格差や授業内容について様々な意見が保護者から出るのは例年通りではありますが、その意見について学校としてどの様な工夫や取り組み方、改善をされているかが見えない事も満足度の低さを表しているように感じます。

英語力に関して、どの学年に於いても満足度が3.0に達していないのも残念です。

数年前よりiPadの導入をする等、新たなものを取り入れる事は評価されて良いと思うのですが、英語教育という点に於いては今ひとつ生かしきれていない様に感じます。

英語の授業を中学校から（或いは小学校から）何年もかけて学んでいるにもかかわらず、英語力がなかなか身につかないという現象は全国的にあるかと思いますが、『英語力が高い成城』となれるよう、教育活動の充実を期待したいと思います。

B：

学年が上がっていくに従って評価が高くなっていきますが、これは中学入学時における我が校の事情が関係していると思われまます。

成績表もない初等学校から上がってきた子供達と、小4の頃から受験勉強に明け暮れてきた子供達の学力差は厳然として存在しており、中学入学直後は初等組と受験組のマッチングがうまくいっていないだろうと想像します。その谷間をどのようにスムーズに埋めていくか、おそらく長年の懸案なのだと思いますが、中学校生活のスタート地点の最重要課題だと感じました。

C：

授業内容の差について、中学校父母の会で実施している意見交換会でも常に話題に上っています。

これは、成城でなくてもあるあるなポイントかと感じますが、カリキュラムは文科省の学習指導要領に沿っているはずで、それでも毎年少くない保護者が感じているとなると、やはり課題点。

教科ごとの連携はどの程度成されているのでしょうか。

塾に通う生徒も多く、情報も簡単に手に入る時代ですが、学校に通う以上は成城の学びを土台としたいと考えます。

学習意欲を引き出す解説や資料、授業時間以外にも質問したりコミュニケーションが取れる環境づくり、教科によりディベートやグループワークを取り入れるなど、生徒の学びが自発的なものとなるような改善をご検討いただけると良いのではと思いました。

D：

これは保護者の一員として非常に評価が難しい質問でもありました。良い授業であるかないかが、自身の子供の成績の良し悪しと直結する訳でもない。授業参観や学年の平均点の推移など評価の指標を考慮する余地がある様に思います。学内での教員同士の（学校間を跨いだ）相互観察が活発化する事があれば有意義な気がします。

E：

友人やイベント・部活・施設に関しては、中学1年生の入学時から高い評価であるのに対して、学習意欲、学習状況、教育活動や英語の伸長に対しては満足度がやや低めである。やや低めとはいえ、学年を経るにしたがって、評価が高くなっている。そこで、中学1年生から。この学校では「オフとオンをはっきりする」することを徹底することを教育することが大事だと思われる。楽しい時には楽しむが、学ぶときには真剣に学び、ひとりひとりが自律的に学んでいく場所である、という意識づけを中学1年の時からしていくことが大切なのではないかと考えた。また、保護者に、成城の教育活動を理解していただく広報活動や参観や、子どもの先生が親に対して行うような講座なども有効だと考えられる。

F：

満足度の低い Q2 や Q15 からは、授業や教育活動における生徒の学習意欲を引き出すことについて満足度が低いことが分かる。

Q③その他の項目

A：

Q9 がありました感染対策について御礼を申し上げたいと思います。

新型コロナウイルスという未知のものに遭遇し、学校という集団生活の中でどこまで、どの様な対策を行なったら良いかを判断し実行するのは大変な努力とご尽力があったと拝察致します。

各教室の消毒や検温、休校中のオンライン授業等々、過去に前例のない事を短期間で考え実行するのは、どれ程

大変であったかと思えます。

連日の陽性者に対するフォローも行って頂き、その数を思いますと不眠不休でのご対応であったといっても過言ではないでしょう。

学校再開時は学校の感染対策の方針の下、安心して子どもを登校させて頂く事も出来、全ての学校関係者の皆様に感謝申し上げます。

B :

コロナ禍中に行われたアンケートであることから、普段の学校生活について保護者が知る機会がほぼない状態では回答しにくい項目が多かったように感じます。

今後コロナ以前のようにオープンな環境に戻ってくれば回答の傾向も変わってくるのではないのでしょうか。

C :

「全体を通して、コロナ禍での中高⇄家庭の遮断も影響していると感じます。

登校を再開してからも制限は各所にあり、本来であれば特色ある成城教育が数年にわたって保護者に伝わらず、情報源は主に我が子や親しい保護者仲間からとなり(子どもは都合の悪いことをなかなか親には伝えません。ウチだけ?!)、多少一方的な判断をせざるを得なかったのでは、と感じました。

保護者が自身で見て、感じた結果の次回アンケートはどうなるか...楽しみです。」

D :

特にありません。

E :

「重要度が低い項目」のなかに、科学的思考力、ICT機器の活用、特色ある教育などの項目があるが、これらが重要度が低い、と評価されたのは意外である。重要度が低いとはそもそもどういう意味なのか、よくわからない。この業者のやり方はあまりこれまで見たことのないような分析である。また、分析の仕方が例えば初等学校出身者か否か、男女の差はどうか、など、細かい分析ができず、これでしたら自分でグーグルフォームで分析したほうがよりわかりやすいのではないかと考えた。

F :

回答なし

Q④「全体を通してのご意見・ご感想」「今後への提言」をお書きください。

A :

成城生の良い所を一言で表すとすれば、『人間力の高さ』ではないでしょうか。

コミュニケーション能力を養い、人として立派に成長させて頂ける場が、成城学園中学校高等学校であると思うと同時に、それが満足度の高い項目(Q4,Q7,Q13)にも表れていると思います。

子どもたちが学校生活を楽しく有意義に過ごし、良い友人関係を築きながら行事や部活等で生き生きと過ごせている中で、更に学力向上や授業に関する満足度を高めていけたらと思います。

保護者から授業の質、授業内容の格差についての意見は例年、出る意見でもあり、満足度が低いままである事も大きな課題であると思います。改善や新たな取り組みをして頂いていると思いますが、その点が保護者にも見えるよう、コロナ禍で実施できなかった授業参観の再開や、具体的にどの様な対応をして下さっているか発信して頂く等の工夫がされると良いのではないかと考えます。

また、生徒自身も意欲的に授業に臨む、目標をたてる等の意識を持つ事を忘れずにいてほしいと願っております。

B :

アンケートを回答するにあたって、中高生しかも男子となると学校生活の細かい話をしてくれるでもなく、学校に行く機会もなく、目にすることができるのはテスト結果と成績表ばかり、となるとなかなか難しかったです。学習面のアンケート結果が少々厳しめに出てきますが、こんなことを申し上げるのは語弊がありますが、成城学

園が目指すべきは果てしない学力の向上や進学実績なのだろうか、と思うことがあります。この学校における勉強の意義は別のところにあるのではないかと。人生を豊かにする一助としての勉強なのではないかと思ったりします。

また、成城学園の特色としてよくワンキャンパスという言葉が出てきますが、中高は連携ができていても、幼稚園、初等学校、大学とは、果たしてワンキャンパスを生かした連携ができているだろうか、と思います。ちょっと閉じている感じがします。同じ敷地内に兄弟姉妹が通っているのがうちの学園の大きな特色であるなら、学校行事を含め、調整し合いながら運営されていくのが理想の形ではないでしょうか。

Q1 に父母の会についての設問がありますが、保護者の無理難題ではない真っ当な意見が果たして取り上げられているか、少々疑問でもあります。

本来の学校評価アンケートの趣旨とは外れるかもしれませんが、貴重な機会なので思うところを少しだけ書かせていただきました。

C :

成城学園の大きな柱である、個性尊重の教育。

教員の個性もまた尊重されているのではないのでしょうか。

お互いを知ることは、理解につながり、ひいては信頼につながります。

通常の学校生活や行事が戻るこれからの日々に、保護者が先生や学校に触れる機会が多くあることを願います。コロナ禍の制限を経て、無理しなくて良いという選択肢を持ってしまった子どもたちが、今後通常の成城学園に戻っていく中でどのように自立していくのか。

家庭からサポートしつつ、学校からも積極的な情報共有があることを期待したく思っております。

我が家の子どもたちが戸を叩いた時、声をあげた時、必ず応えてくださる先生がいらしたこと、親として忘れることができません。

真の教育とは？学びとは？

私たち保護者の在り方も含めて、共に考え、一致していけたらと思います。

この機会をいただきましたこと、心から感謝しております。

D :

学校評価として、形式的に整えるのではなく、本当の評価が知りたいと言う学校の意思が伝わる内容だったと思っております。良い評価を得る為のアンケート、では決して無かった事がとても評価出来る点でした。大切なのはこれをどう読み解き今後の改善に繋げて行くかです。ぜひその辺りのフィードバックを丁寧に意識して下さると学校に関わる全ての人の信頼関係が深まると思うので期待しております。この機会に、長所も短所も含めて、改めて良い学校にお世話になっていると感謝しました。

E :

全体を通して、満足度が高い項目が多く、得に友人関係への満足、部活やイベントへの満足など、成城らしさが表現された結果になったのではないだろうか。素晴らしい結果だと思う。そして、学びの面ではまだまだ生徒たちに対して、そして保護者に対する広報面でも、できることがあるのだと感じた。また、記述回答が示されなかったのは残念である。記述回答は個人名が特定されるとのことだが、本当に特定されるものだけを除き、また名前は伏せるなどすれば、記述回答の例を紹介できるのではないだろうか。こちらの用意した質問に答えるだけでは不十分、記述で回答して下さった保護者の意見をより吟味することが、現状を分析し、今後への方針を立てるためには必要ではないだろうかと感じた。

F :

満足度が低い項目に関して、改善を図る努力をする必要もあるかと思えます。一方で十分に保護者へ先生方が努力されている姿が伝わっていたか？も振り返っていただくとよいかと思えます。

委員長による全体のまとめ

令和5年6月10日、中学校高等学校校長室において、「令和4年度学校関係者評価委員会」を開催した。中村校長の議事進行の下、保護者委員4名、接続校委員2名参加による学校関係者評価委員会では和やかな雰囲気の中、アンケート結果に基づいて意見交換がおこなわれた。

① 「重要度が高く、満足度が高い項目」について

子どもたちが良い友人関係を築きながら学校行事や部活動に積極的に参加し、有意義な日々を送れている事は大変喜ばしく、学校生活を過ごす上では何よりも大切な事であるだろう。物理的環境である施設・設備についても全ての学年で高水準であり、恵まれた環境で生徒たちが楽しく青春を謳歌している様子が窺える事は、成城学園としての真価が認められているという事に繋がるのではないだろうか。今後も変わらずにあってほしい評価である。

② 「重要度が高く、満足度が低い項目」について

学びに関する評価が各学年で低い事は大きな課題であると考えます。

学年が上がる毎に評価も多少上がってきているとはいえ、最も改善されるべき項目だろう。

授業内容や質の格差は例年、保護者から意見が出る・感じている事でもあり、その点についてなかなか評価が上がってこない事に対して具体的な対策や、保護者への広報も有効ではないだろうか。

今後は、生徒の自発的な学びを促し学習意欲を引き出す教育活動の充実や、学校を跨いだ教員同士の相互観察の活発化等にも期待したい。

*コロナ禍において、令和4年度は出来る限り学校生活を元通りにしていくとの学校の方針ではあったが、まだまだ我慢を強いられる場面もあったかと思われる。

その様な中においても、①のように子どもたちが友人関係を築きながら有意義な日々を過ごせていた事は大いに評価されるべきだろう。

コロナ禍という特殊で限られた環境の中でも与えられた中で楽しむ術を見いだせるのは成城生の素晴らしいところであるが、その反面、保護者と学校との距離は広がってしまったように感じる。

学習面についての満足度の低さも、見えないが故に生じる意見や不満もある様に見受けられる為、学校から保護者へ情報を発信していく事も大切であろう。

*距離が広がるという点において、学校間の連携もそのひとつに入るのでないだろうか。

成城学園のワンキャンパスという特色が、幼稚園から大学まで連携という形で取れているだろうかと感じる事がある。それは学習面であったり学校行事であったりと様々であるが、同じ敷地内に兄弟姉妹が通い、幼稚園児から大学生が同じワンキャンパスに集うという大変素晴らしい環境であるからこそ、調整をとりながら運営して頂き、各学校間の風通しを良くする事も重要ではないだろうか。

*今回のアンケートを通して、形式的に学校評価を整えるのではなく、真の評価を知りたいとの意思が伝わる内容であった事は高く評価したい。また、この評価を得て如何に問題解決に向けて取り組むべきかという学校の姿勢も感じられるのは有り難い限りである。

また評価委員からの意見にあるように、記述式の回答を個人名が特定されないように紹介頂くのも良いのではないだろうか。質問に当てはまらない、記述式で回答する保護者の意見を読むことで気付かされる事もあるのではないかと考える。

学校評価委員会を開催して頂き、どれも成城愛に溢れているからこそその意見だと感じる事が出来た。

今後も学校と保護者との連携を始め、真の『三位一体』が実践され、学力向上も目指しつつ『個性尊重』を重んじ、生徒たちのより豊かな心身の成長が出来る成城学園であってほしいと切に願っている。

令和4(2022)年度 学校評価アンケート 初等学校 自己評価について

○はじめに

2020年2月から続いたコロナ禍。新しい学校生活様式を取り入れ、ICT機器を活用したオンライン学習は一定の教育効果を上げながらも、対面による教育活動の重要性を再確認する期間となった。2022年度からは感染対策を講じつつも、コロナ前の教育活動が徐々に戻ってきた。このタイミングで学園の学校評価委員会が4年振りに組織され、本校でも日頃から本校の教育活動に理解と協力を頂いている保護者を対象に学校評価アンケートを実施する運びとなった。保護者アンケートの集計結果を十分に参考にし、本校の教育活動のさらなる向上につなげていきたい。

○学校目標(第2次中期計画)

I. 教育活動(特色ある教育)

(A) 国際教育

(a) 語学教育

- 1) 英語を英語のまま理解する態度を持ち、外国語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションができる。
- 2) 6年生で英検4級取得相当の英語力を身につける。

(b) 国際交流

学習した英語を用いてコミュニケーションを図る機会を提供し、世界の多様な価値観に触れ、自主性とともに関わり合いの心を育てる。

(B) 理数系教育

(a) 論理的思考力

あらゆる教科において、筋道立てて、考察・説明しようとする経験を積むことで、論理的に考える資質・能力を育成する。

(b) デジタルスキル

- 1) 様々な電子機器、ICT機器を利用し、表現する技術を習得する。
- 2) 電子機器、ICT機器を利用して、効果的な情報収集をし、情報の取捨選択をするとともに、正しく情報活用ができるようにする。
- 3) 電子機器、ICT機器を利用した表現活動や映像作品の鑑賞を通して、創造性を養う。

(c) 科学教育・環境教育

- 1) 自然や日常事象との関わりを通して、そこから見出される様々な問題を、「生きてはたらく知識・技能」を用いて、探究していく姿勢を育成し、人間を含めた自然を愛する心情を養う。
- 2) 本物に触れ合うことで、地質学への興味関心を持たせるために「恐竜・化石ギャラリー」を活用する。

(C) 情操・教養教育

出会いや関わりを大切にし、言葉や文字、歌や身体等、様々な表現方法で思いを伝える経験をすることで、心を解放し、互いに感性を磨き、豊かな表現力を育む。

(D) 学校独自の分野

出会いや関わりを通して見出される様々な課題に対して、自ら考え行動し、高め合い学んだことを、よりよい未来に生かす力を育む。

II. 研究活動

- 1) 児童の教育活動の充実を図るため、授業研究を通して、教員の授業力の向上を目指す。
 - ・外部発表の継続・充実
 - ・校内授業研究会の継続・充実
- 2) Zoom 等を利用したリモート授業に関する研究。
- 3) 教育成果の発表を行う。
- 4) 学校評価の実施
 - ・「教育の質」向上を目的として、学校が課題を発見し、その解決に向けた改善活動を行う。

III. 社会連携活動

奉仕活動・成城学園前駅付近商店との地域連携の強化を模索し、検討する。例) 朝の挨拶運動、清掃活動等

IV. 教育環境整備

- 1) GIGA スクール構想に準拠した環境の整備。
 - ・児童 1 人 1 台端末の整備
 - ・管理ソフトの導入 (1 人 1 ID の用意)
 - ・児童 1 人 1 つ Google アカウントの取得
 - ・オンライン授業環境の整備 (Zoom・学びポケット)
 - ・デジタル教科書の導入
- 2) Zoom 等を利用したリモート授業に関する研究に付随する環境整備。
- 3) 生涯体育に関する研究 (体育館・小グラウンド等の環境整備)。
- 4) 図書室の環境整備とシステムの拡張。

○学校評価保護者アンケート実施

- ・実施期間：2023年1月12日～1月27日
- ・対象：初等学校全保護者 「初等ネット」にてアンケートを配信
- ・アンケート回収率：89% (560件/630名の回答あり)
- ・アンケート項目
 - 1) 下記Q1～Q25について、回答者が重要度と満足度について回答する。

【重要度】①たいへん重要 ②やや重要 ③あまり重要でない ④重要でない

【満足度】①とてもそう思う ②ややそう思う ③あまりそう思わない ④思わない
4段階の回答の点数化・・・ (4点) (3点) (2点) (1点)

2) Q26は任意の自由記述。

Q1 学校は、父母の会との連携をとり、保護者の声を教育活動に反映できるよう努めている。

Q2 学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、児童一人ひとりの個別最適化の教育活動に努めている。

Q3 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている。

Q4 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向け、様々な表現活動や発表活動に努めている。

Q5 学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている。

Q6 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。幼・初・中高共通

Q7 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。幼・初・中高共通

Q8 お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している。

Q9 学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている。幼・初・中高共通

Q10 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。幼・初・中高共通

Q11 お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。

Q12 お子さんは、劇や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している。

Q13 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる。幼・初・中高共通

Q14 感染対策を含めて、学校内における安全が、十分に守られている。幼・初・中高共通

Q15 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている。

Q16 学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である。

Q17 特色ある教育活動が行われている。幼・初・中高共通

Q18 英語の授業を通じて、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を伸ばす教育活動を充実させている。

Q19 学校は、日々の教育活動で、ICT機器（タブレット、プロジェクターなど）を適切に活用した授業を行っている。幼・初・中高共通

Q20 学校では、コロナ禍において感染状況に応じたオンライン学習等の教育活動が行われている。

Q21 数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている。

Q22 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。幼・初・中高共通

Q23 学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている。

Q24 学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている。

Q25 本学園の良さを学外の人に伝えたい。幼・初・中高共通

Q26 学校をより良くするためのご提案があれば、ご記入ください。

○保護者アンケート集計結果の読み取り

Q1 学校は、父母の会との連携をとり、保護者の声を教育活動に反映できるよう努めている。

・満足度 3.1 (4.0満点)

・コメント：コロナ禍にあつて、様々な制約から保護者と学校とのコミュニケーションが足りていなかったことを反省する。今後、校長懇談会の企画など父母の会委員や保護者とのコミュニケーションの機会をつくり、「三位一体の教育」の実が伴うよう連携をより強くしていく。

Q2 学校は、「個性尊重の教育」の希望理想の実現に向け、児童一人ひとりの個別最適化の教育活動に努めている。

・満足度 3.2 (4.0満点)

・コメント：保護者にある程度評価されていることがわかる。児童一人ひとりに寄り添う個別最適化の教育活動と一口に言っても、課題が多いのが実際である。個別最適化の教育活動について学校として継続的に粘り強く取り組んでいく。

Q3 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている。

・満足度 3.5 (4.0満点)

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。低学年での「遊び」「散歩」の時間や、クラスデー、校外学習、4～6年生の「夏の学校」、「スキー学校」などを通じて、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け継続的に取り組んでいく。

Q4 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向け、様々な表現活動や発表活動に努めている。

・満足度 3.4 (4.0満点)

・コメント：保護者によく評価されていることがわかる。「音楽の会」、「器楽合奏の会」、「劇の会」、「劇発表の会」などを通じて、「心情の教育」の希望理想の実現に向け、継続的に取り組んでいく。

Q5 学校は、「科学的研究を基とする教育」の希望理想の実現に向け、教員の研究活動に努めている。

・満足度 3.2 (4.0満点)

・コメント：保護者にある程度評価されていることがわかる。入試広報部発行『文質彬彬』（本校の科学的研究を基にした論文集）で学校からの発信として対外アピールに努め、創立者の教育の希望理想を継承していく。

Q6 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。

・満足度 2.9 (4.0満点)

・コメント：幼・初・中高共通の質問項目の一つ。満足度2.9という数値は、保護者の多数から本校では「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれていない」という問題点を指摘されたことを意味する。大いに反省し、早急に改善策を講じていかなければならない。ただし、質問文にある「学力」の定義は曖昧であり、一口に「学力」と言っても、学校側が考える「学力とは何を意味するか」と保護者お一人おひとりが思う「学力」とでは千差万別ではないかという感想を持つ。

本校ではあらゆる教科において、学習者である子どもが主体となり、対話的で探究的な深い学びを追究している。本年度、「探究する子の育成」を研究主題に「教育改造研究会」を開き、全国の教育関係者と協議した成果を発表している。学校での「学び」はどうあるべきか、保護者の皆様とも「学力とは何か」を刷り合わせていく必要がある。

Q7 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。

・満足度 3.5 (4.0満点)

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。クラス活動の充実を図るとともに、トラブルが起こった時こそ友達と良い関係を築くチャンスととらえて、子どもたちの成長と人間関係の構築、人格の形成を学級担任だけでなく、教員チームとして見守っていく。

Q8 お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している。

・満足度 3.5 (4.0満点)

・コメント：保護者にたいへんよく評価されていることがわかる。「つながり」の時間などを通じて、最小6名から最大216名までのユニットとしての活動は、高学年児童のリーダーシップに期待するところ大である。

Q9 学校は、公開授業や情報公開を通して、お子さんたちの学校生活の様子が分かるようにしている。

・満足度 3.5 (4.0満点)

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。保護者の皆様には、いつ何時学校に来られてもかまいませんとしている。在校児の保護者に対し本校では常に門戸を開き、授業参観、学級担任や教科担当との個人面談、「学校からのお知らせ」や各組学級担任が発行する「クラス通信」などで

お子さんたちの学校生活の様子が分かるように心がけている。

Q10 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。

・満足度 3.5 (4.0満点)

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。学校行事を発表の場として、子どもたちが表現力を養い、対人関係を深めるなど、子どもの成長を学校全体で見守っている。

Q11 お子さんは、文化祭、運動会、校外学習などの学校行事に積極的に参加している。

・満足度 3.7 (4.0満点)

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。「行事が人を育てる」として行事教育の重要性に鑑み、継続的に学校行事の充実に取り組んでいく。

Q12 お子さんは、劇や音楽の授業を通じ、劇の会や音楽の会に積極的に参加している。

・満足度 3.6 (4.0満点)

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。子どもたちはしなやかな発想力で創意工夫し、個々の表現力に磨きをかけ、教員は「心情の教育」の希望理想の実現に向け、継続的に子どもたちと向き合っている。

Q13 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる。

・満足度 3.2 (4.0満点)

・コメント：保護者にある程度は評価されているが、十分ではないことがわかる。個人情報や守秘義務など問題点を整理した上で、教員対象の研修会などを通じ、保護者に気軽に相談してもらえるよう改善に向け取り組んでいく。

Q14 感染対策を含めて、学校内における安全が、十分に守られている。

・満足度 3.4 (4.0満点)

・コメント：保感染拡大防止策が功を奏し、護者に比較的高く評価されていることがわかる。今後の新たな感染症に備えるなど学校として危機管理の重要性を痛感したコロナ禍であった。

Q15 進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供は適切にされている。

・満足度 2.6 (4.0満点)

・コメント：本校では、学園中学校高等学校と連携し、毎年5月に初5児童対象の学園中高見学会、毎年5月・11月・1月の3回、初6合同保護者会を開催している。高学年保護者には進学に関する情報提供を適切に行っていると考える。しかし、各学年の進級に関する情報や低学年・中学年保護者への進学に関する情報の提供にあまり重点を置いてこなかった。保護者の「我が子の先行き」に安心感を持つ

てもらったためにも、今後、改善の余地のあることだと受け取った。学園内広報のあり方についても再考していく。

Q16 学校から発信される初等ネットや「学校からのお知らせ」などの量と内容は適切である。

・満足度 3.5 (4.0満点)

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。保護者への一斉連絡のツールとして「初等ネット」の活用は周知の観点から有効であり、「学校からのお知らせ」配信のほかにも行事実施可否など緊急連絡など使い勝手がよい。

Q17 特色ある教育活動が行われている。

・満足度 3.4 (4.0満点)

・コメント：保護者にたいへんよく評価されていることがわかる。「ここにしかない時間」のキャッチフレーズで学校案内パンフレットのほか、学校説明会・進学相談会・インスタグラムなど入試広報活動、幼初推薦連絡説明会、その他教育改造研究会やその他研究授業発表会等々で本校教員の発信力の高さによるところも大きい。

Q18 英語の授業を通じて、4技能「聞く」「話す」「読む」「書く」を伸ばす教育活動を充実させている。

・満足度 2.6 (4.0満点)

・コメント：成城学園第2世紀プランにある教育改革三本柱の一つが「国際教育の充実」であり、中でも英語一貫教育推進は学園からの支援を受け、本校でも重点的に取り組む教育活動である。第2世紀プランに基づく中期計画(2021～2023年度)の目標にも「英語を英語のまま理解する態度を持ち、外国語の『聞く』『話す』『読む』『書く』の技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションができる。」を掲げている。中期計画実行のコロナ禍での影響は言い訳に過ぎず、本質問への満足度2.6は猛省すべきことととらえている。校長自ら英語研究部に入り、英語授業担当者と英語教育の充実のために出来る事は何でもする覚悟である。2023年度は中期計画の最終年度となる。次年度の保護者アンケートに同一の質問があれば、満足度が3.0を超えるように英語研究部だけでなく、学校を挙げて努める。

Q19 学校は、日々の教育活動で、ICT機器（タブレット、プロジェクターなど）を適切に活用した授業を行っている。

・満足度 3.1 (4.0満点)

・コメント：保護者にある程度評価されていることがわかる。校内のICT機器を活用し、教育環境の整備が図られ、デジタル・シティズンシップ教育も進められている。また、ご家庭の協力を得て、3年生以上1人1台iPadが定着し、ICT教育の充実に継続的に取り組んでいる。保護者アンケートの満足

度が想定よりも低かったことを反省し、問題点の整理や今後の課題を見出していく。

Q20 学校では、コロナ禍において感染状況に応じたオンライン学習等の教育活動が行われている。

・満足度 3.3 (4.0満点)

・コメント：保護者によく評価されていることがわかる。ご家庭の協力を得て、コロナ禍でいち早くオンライン学習を導入するなど、ICT教育の充実に継続的に取り組んでいる。ご家庭の協力を得て、3年生以上1人1台iPadが定着した。

Q21 数学、理科、映像等の授業を通じ、説明する力・論理的に考える力を伸ばす教育活動が行われている。

・満足度 3.0 (4.0満点)

・コメント：成城学園第2世紀プランにある教育改革三本柱の一つが「理数系教育の充実」であり、中でも情報一貫教育推進は学園からの支援を受け、本校でも英語教育の充実と共に重点的に取り組む教育活動である。第2世紀プランに基づく中期計画(2021～2023年度)の目標にも「あらゆる教科において、筋道を立てて、考察・説明しようとする経験を積むことで、論理的に考える資質・能力を育成する。」を掲げている。

満足度3.0の数値は、重点的に取り組む教育活動の成果が保護者には十分に評価されていないことを意味する。今回のアンケート結果から反省点を洗い出し、次年度の改善に向け努めていく。

Q22 学校の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。

・満足度 3.7 (4.0満点)

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。学校としてメンテナンスを含め教育環境整備に積極的に取り組んでいく。

Q23 学校では、安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教室など)が適切に行われている。

・満足度 3.5 (4.0満点)

・コメント：保護者に高く評価されていることがわかる。学校として安全対策(避難訓練、不審者対応、交通安全教室、メディアリテラシー教育など)に継続的に取り組んでいくので、保護者の皆さまには毎日安心してお子さんを学校に送り出していきたい。

Q24 学校は、校舎内外の環境の整備と美化に努めている。

・満足度 3.6 (4.0満点)

・コメント：保護者に十分に評価されていることがわかる。学校として継続的に環境整備と校内美化に取り組んでいく。道徳教育の観点から学校施設・設備をきれいに大切にするなど、子どもたちの意識を高めていきたい。

Q25 本学園の良さを学外の人に伝えたい。

・満足度 3.4 (4.0満点)

・コメント：保護者によく評価されていることがわかる。学校・学園の発展は、受験児・受験生の安定確保と連動する。また、口コミこそ最も効果的な広報活動とも言われる。イメージアップに継続的に努めていく。

Q26 学校をより良くするためのご提案があれば、ご記入ください。

・コメント：「自由意見結果一覧」を見ての通り、保護者の皆様から実に様々な意見が寄せられた。ご意見・ご感想をいただいたお一人おひとりの「学校評価」として、学校としてしっかり受け止めさせていただく。2022年度は、1学期から学校行事再編について保護者の皆様から賛否両論の意見を頂いたが、2023年1月実施の今回のアンケートでも行事に関して多くのご意見があった。

その他、日常の子どもたちの学校生活、クラス活動、異年齢交流活動、人間関係、子どもと先生との関係等々、お褒めの言葉も「耳の痛い」お言葉もあった。全てに丁寧にお答えしたいところであるが、2023年度が始まっているところで、今後の学校運営を考える上で大いに参考にさせていただくことでご容赦いただきたい。

○結び

保護者アンケートの集計結果から回答者(保護者)にとって重要度・満足度とともに高かったのは、Q3 学校は、「自然と親しむ教育」の希望理想の実現に向け、授業や学校行事を通じて体験学習活動に努めている。Q4 学校は、「心情の教育」の希望理想の実現に向け、様々な表現活動や発表活動に努めている。Q7 お子さんは、学校で良い友達関係を築いている。Q8 お子さんは、「つながり」の異年齢活動や異年齢交流を通じ、人間関係を豊かに構築している。Q10 学校行事は、お子さんの学校生活の良い発表の場になっている。以上5項目であった。

反対に、回答者(保護者)にとって重要度が高く、満足度が低かったのは、Q6 学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業がおこなわれている。Q13 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる。以上2項目であった。この2項目は児童の学力保証と心身のケアの観点から、優先的に改善に富まなければならない課題である。今回の調査結果をもとに本校の教育活動のさらなる向上につなげていきたいと考える。

以上

学校関係者評価委員会 報告

成城学園初等学校 学校関係者評価委員会（以下、本委員会）は、令和4年度 成城学園初等学校 学校関係者評価の結果を以下の通り報告いたします。

I 本委員会の基本姿勢について

本委員会では評価に先立って、基本姿勢を定めた。その姿勢は次の通りである。

- 1 成城学園初等学校（以下、初等学校）に通う児童の幸福のために評価を行うこと。
- 2 1の目的の実現のために各委員は、成城学園初等学校自己評価実施委員会（以下、自己評価委員会）から提出された自己評価、および学校評価アンケートを熟読・分析し、忌憚のない意見を述べること。
- 3 2で各委員より出された意見について、1の目的に適うか否かを熟議し、委員会としての意見を形成すること。

上記三点の基本姿勢に基づいて、評価を行ったことを、ここに明言する。

II 自己評価委員会の評価基準について

初等学校の学校評価アンケートは、回答者が各質問項目に対する満足度を4点満点で回答することになっている。自己評価委員会は、平均3.2以上の項目を保護者から評価されている項目、それ以下を反省、改善が必要な項目としている。（Q19は満足度3.1であるにもかかわらず「ある程度評価されている」としているが、そのあとに反省の弁があるため、先述の評価基準に矛盾しないものとする）

この自己評価委員会の基準を、本委員会は妥当なものである、と評価する。満足度3.2という数値は8割の保護者から高評価を受けていることを意味する。その数値を評価されているか否かの境界とするのは、けっして自己に甘い基準であるとは言えない。また満足度3.0を切る項目に対してなされている強い反省の弁に対しても、真摯なものであると評価した。

III 保護者アンケートで高評価を得た項目に対する自己評価について

自由記述以外の全25項目のうち、満足度の平均が3.2以上の項目（＝高評価を得た項目）は、19項目ある。これらに対する自己評価委員会の評価は適切である、と評価する。Q2～Q5は、本学園の創始者である澤柳政太郎以来、本学園が最も大切にしている四綱領に関する

る項目であるが、このすべてで3.2以上の満足度を受けていたことは、重要なことであると考えられる。今後も本学園の特色である四綱領を基盤とした初等学校の教育を維持していただきたい。

またQ7,8の結果からは、児童が同級生のみならず異年齢の児童とも豊かな人間関係を構築していることが、Q11,12の結果からは、劇や音楽の会をはじめとした学校行事に児童が積極的に参加していることを読み取ることができる。これらも初等学校ならではの教育が保護者に評価されている証であり、やはり今後も維持、発展させていただきたい重要な部分である。

IV 保護者アンケートで低評価を得た項目に対する自己評価について

ここでの「低評価を得た項目」とは、満足度の平均が3.0未満である項目である。具体的には、Q6「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」、Q15「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」、Q18「英語の授業を通じて、4技能『聞く』『話す』『読む』『書く』を伸ばす教育活動を充実させている」の3項目である。この三項目についての自己評価委員会の評価は、概ね適切であるものの、一部その反省の実現可能性について不十分な部分がある、と評価する。以下、各項目の自己評価委員会の評価に対する本委員会の評価を述べる。

IV-1

Q6「学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている」の評価について

自己評価委員会は「質問文にある『学力』の定義は曖昧であり、一口に『学力』と言っても、学校側が考える『学力とは何を意味するか』と保護者お一人おひとりが思う『学力』とは千差万別ではないかという感想を持つ」とし、「保護者の皆様とも『学力』とは何かを擦り合わせていく必要がある」としている。

そうであるならば、質問文の内容を変えるべきである。自己評価委員会は「本校ではあらゆる教科において、学習者である子どもが主体となり、対話的で探究的な深い学びを追究している」としているのだから、これをこそ保護者に評価してもらうべきではなかっただろうか。ただ「対話的で探究的な深い学び」を保護者が評価をすることは、あまりに抽象的で難しいと考える。したがって、「対話的」な学び、「探究的」な学びとは具体的にどのような学習活動を指し、それがどの程度達成できれば「深い」学びとなるのかを明示したうえで保護者に評価を請うべきであろう。

自己評価委員会が考えている「学力」とは異なるであろうが、学校評価アンケートからは、いわゆるペーパーテストの点数で測れるような学力が身につけていないことを危惧している保護者がいることも読み取れた。その理由の具体例として、本委員会の委員からは、コロナ禍によるオンライン授業のため授業の進度が遅れていたこと、ある教科では、与えられた

テキストが上下巻であったにもかかわらず、上巻しか終わらなかったことなどが挙げられた。このように、諸般の事情で予定していた学習内容を消化できなかった場合は、その理由や、未消化の内容に対する手当についての明確な説明を児童と保護者に行うことが必要である。そうしなければ、「学力を身につけられるような授業」が行われていないと評価されても仕方がないであろう。

また、中学生以上の兄弟を持つ保護者からは「学習習慣が身につけていないために中学1年次はかなり苦労した。初等学校時代に学習習慣を身につけられたら」という要望もあった。初等学校伝統の特色ある授業は大切にしながらも、中学生になるための学習面での準備も家庭と協力しながら行って欲しい。

最後に、コロナ禍で授業参観が制限されたために、保護者の学力に対する不安が増したのではないか、今後コロナ以前のような授業参観が行われれば不安が減るのではないか、という意見もあったことを付言しておく。

IV-2

Q15「進級や成城学園中学校高等学校への進学に関する情報提供が適切にされている」の評価について

自己評価委員会は、5年生対象の学園中高見学会や、年3回行っている初6合同保護者会などを挙げ「高学年保護者には進学に関する情報提供を適切に行っていると考える」と述べている。そして、改善すべきは「各学年の進級に関する情報や低学年・中学年保護者への進学に関する情報の提供」であるとしている。

しかし、学校評価アンケートの「設問別重要度-満足度分析」において、Q15の満足度は5年生は最低のD象限、それ以外の学年もC象限にカテゴライズされており、保護者は自己評価委員会が考えているほど「適切に」情報が提供されているとは考えていないようである。この結果について本委員会の保護者の委員から次のような意見が出されたので、紹介する。

- ①「コロナ禍で中高の文化祭にも行けなかったことが、中高の生の姿がわからないという感想につながっている」
- ②「6年生が中学校に『体験入学』できるような機会が欲しい」
- ③「ワンキャンパスなのに中高とあまり関わりがなく、自分の子どもの近未来の姿が描きにくい」

これらの保護者の意見を踏まえると、現状以上に中高、とくに中高生との交流が求められているように考えられる。教員による「公式」の情報提供だけでなく、中高の生徒が初等学校の児童と触れ合う機会を設けることが必要であろう。児童と触れ合う中高生の姿を目にすることで、保護者は我が子の未来の姿を描きやすくなるのではないだろうか。

IV-3

Q18 「英語の授業を通じて、4技能『聞く』『話す』『読む』『書く』を伸ばす教育活動を充実させている」の評価について

満足度の平均が 2.6 という厳しい評価に対して自己評価委員会は「猛省すべきこと」とし、「校長自ら英語研究部に入り、英語授業担当者と英語教育の充実のために出来る事は何でもする覚悟である」というコメントを出している。初等学校が目標としているのは「英語を英語のまま理解する態度を持ち、外国語の『聞く』『話す』『読む』『書く』の技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションができる」力を養成することである。そのため授業がオールイングリッシュで行い、英検 4 級合格を目標としている。

ここで本委員会は授業内容と英検 4 級合格という目標について初等学校、ひいては学園に再考をうながしたい。学校評価アンケートには、「英検 4 級合格のハードルは高い」「英検を受けさせたくない」「検定対策が家庭に委ねられているのはおかしい。検定に対応しうる学習指導を授業内にやってほしい」「英語塾に通っている児童だけが授業を楽しめ、そうでない児童は授業についていけない」という内容の意見が寄せられている。本委員会の委員からも「通塾し英検準 2 級を持っていた娘は初等学校の英語の授業は楽しいと話していたが、実際にそう感じるのはクラスの 2 割程度だと思う」という意見がでた。また初等学校の英語の授業を見学した中高の英語の教員も「ずいぶん高度な内容を教えている。中学 2 年生レベルの内容もあった」と述べている。

以上の意見を踏まえれば、現状の初等学校の英語の授業は「わかる児童には楽しい。しかし、わからない児童がわかるようになる授業ではない。わからないから楽しくない」というものだと考えられる。そこで、オールイングリッシュという授業方法と、英検 4 級合格という目標は見直すべきである。「英語を英語のまま理解する態度を持ち」という目標をかなえるためのオールイングリッシュなのであろうが、そのせいで英語が嫌いになってしまったら本末転倒である。また「英語を英語のまま理解する態度を持ち、外国語の『聞く』『話す』『読む』『書く』の技能を統合的に活用しながら、積極的にコミュニケーションができる」力を養うために、英検 4 級合格のための学習は本当に必要だろうか。再検討の必要が大いにあると考える。初等学校時代の英語教育が目標とすべきは、「英語やその背景にある異文化に対して関心を持たせ、英語を好きにさせること」である。それがなければ、「英語を英語のまま～」といったような力を身につけられるはずはない。「好きこそものの上手なれ」。初等学校には「好き」を育む伝統があるはずである。散歩、遊び、文学、劇、音楽……すべて英語教育とコラボレーションできる授業である。楽しい授業の中に英語を取り入れる工夫をして、英語が大好きな成城っ子を育てて欲しい。

V その他の評価とアンケートの課題について

自己評価委員会はIVに挙げた「低評価」の項目の他に改善すべき項目としてQ13「お子さんの心身の健康について、気軽に教員、養護教諭、スクールカウンセラー等と相談できる」（満足度の平均3.2）を挙げている。本委員会はこの項目に関して、初等学校はよく努力しているし、今後は満足度も向上するだろう、と評価する。たしかにスクールカウンセラーの人数に比してカウンセリングを希望する家庭が多くなかなか予約が取れない、コロナ禍のため従前のように気軽に教員とコミュニケーションがとれなくなった、など満足度が下がる要因はある。しかし、コロナが5類に移行した今後は、コロナ以前のように教員とのコミュニケーションは十分なものになるだろう。また、コロナに関する健康不安によるカウンセラーへの相談も減るであろう。

次に、アンケートそのものに対する評価を二点列記したい。

- ① 質問項目の中には保護者が答えにくいものがあった。例えば、Q5「学校は『科学的研究を基とする教育』の希望実現に向け、教員の研究活動に努めている」という項目は、確かに『文質彬彬』などを読めば教員の研究活動についてわかるのかもしれないが、あまり在校生の保護者が手にするものでもなく、評価材料がなく困った、とする保護者の意見があった。
- ② 保護者はすべての質問の重要度と満足度を、それぞれ4段階で答えることになっているが、項目によっては4段階で評価することが難しかった。たとえば評価の材料がなく答えられない質問については「わからない」という選択肢があると、「いい加減な」回答をしないで済むだろう。また「どちらでもない」という中立の選択肢も用意すべきではないだろうか。

VI おわりに

Iで述べたように、本委員会では児童の幸福を願い、上記のような評価を下した。この評価を初等学校、学園がどのように受け止め、どのようなアクションを起こすのかを我々は注視している。最後に一点初等学校、および学園にお願いしたいことがある。それは、保護者が時間を割いて行った学校評価アンケートに何らかのリアクションをして欲しいということである。例えば「英語教育について～という意見が多数寄せられました。この点に関しては～という対応をとります」というように、はっきりと学校の姿勢を示して欲しい。そうすることで初めて学校評価アンケートが生きるし、保護者の学校に対する信頼もより厚くなるだろう。もちろん、すべての意見を受け入れる必要はない。多く寄せられた意見、とりわけ満足度が低かった項目に対して、学校ができることとできないことを明示し、具体的な施策を示してくれることを期待している。

令和4（2022）年度 学校評価アンケート 幼稚園 自己評価について

○はじめに

対面での社会的関係性からの「学び」を重要と考える幼稚園教育において、コロナ対応は、子ども達の健康と同時に子ども達への教育と常に決断を迫られることが多く、日々の保育においても、毎年の行事に関しても新たな取り組みを考えざるを得ない状況が続いてきた。今回のアンケート結果から、そのことへの保護者の方々の受け止め方も参考にしながら、緩和されていく新たなコロナ対応を模索し、教育の質をより高めることを考えていきたい。

○学校目標（第二次中期計画）

I. 教育活動

(A) 国際教育

(a) 語学教育

- 1) 外国人に対し物怖じせず、コミュニケーションを図りたいという意欲を育てる。
- 2) 英語の音、響き等に対する感覚を身につけ、実践しようとする。
- 3) 学園英語一貫教育の入口として、初等学校以降へのスムーズな接続を図る。

(b) 国際交流

- 1) 世界を知る第一歩として、まず日本の文化を体験し、理解させる。
- 2) 英語を通して他国の存在を知るとともに、その文化への興味・関心を持ち、理解を深める。
- 3) 英語以外にも多くの言語が世界に存在することを知るとともに、英語圏以外の文化への興味・関心を持ち、理解を深める。

(B) 理数系教育

(a) 論理的思考力

- 1) 自分の主張を伝える力をつける。
- 2) 相手の考えを聴く力を養う。
- 3) 解決策を考える力を育てる。
- 4) 計画的に物事に取り組む力を育てる。

(b) デジタルスキル

- 1) ICTの楽しさを体感させる。
- 2) 子どもたちの興味関心、理解促進のために、日々の活動にデジタル技術を取り入れる。
- 3) 情報を整理、分析したり、判断する力を育てる。
- 4) ICT機器を扱う際の適切な使い方（態度やマナー、モラル）を身につけさせる。

(c) 科学教育・環境教育

- 1) 自然への関心を育てる。
- 2) 植物の生長への興味・関心を育てる。
- 3) 自然科学への興味・関心を育てる。

(C) 情操・教養教育

- 1) 子どもたちの想像力を育て、人の気持ちへの理解を深める。
- 2) 友達と一緒に協力して行うことの楽しさを知り、その感覚を養う。
- 3) 芸術に対する感受性を育て、さらにその能力を伸ばし、創造力や表現力等の感性を磨く。

(D) 学校独自の分野

- 1) 恵まれた自然環境の中で、自然に触れ、五感を使って感性を磨き、実体験を増やす。

- 2) クラス学年を超えた集団生活を通して人とのつながり、共に生活することの意味を学ぶ。
- 3) 英語、美術、体操の三分野の能力のさらなる向上を図る。

II. 研究活動

- 1) 幼児教育についての研究成果に基づいた保育の研究・実践を目指す。
- 2) 新教育要領に対応した成城カリキュラムの改善。
- 3) ポストコロナの新しい幼児教育のあり方を考える研究プロジェクトの立ち上げ。

III. 社会連携活動

成城地域の人の協力を得ながら、地域社会が行っていることへの、子どもたちの理解を深める。

○学校評価アンケート

- I. 実施期間：2023年1月12日～1月27日
- II. 対象：幼稚園 全保護者 「幼稚園ネット」にて配信
- III. アンケート項目

下記Q1～Q31について、調査対象者が重要度と満足度について回答する。

重要度	①たいへん重要	②やや重要	③あまり重要でない	④重要でない
満足度	①とてもそう思う	②ややそう思う	③あまりそう思わない	④思わない

とくに、満足度を中心に上記①を4点 ②を3点 ③を2点 ④を1点として集計した。

- Q1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。
- Q2 特色ある教育活動が行われている。
- Q3 幼稚園の国際教育は、十分に行われている。
- Q4 幼稚園の理数系教育は十分に行われている。
- Q5 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。
- Q6 幼稚園は、日々の教育活動で、ICT 機器（タブレット、プロジェクターなど）を適切に活用し保育を行っている。
- Q7 幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。
- Q8 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。
- Q9 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。
- Q10 丁寧な子どもの観察が、行われている。
- Q11 子ども達についての情報が十分共有されている。
- Q12 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。
- Q13 人間関係を大切にした教育が行われている。
- Q14 お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。
- Q15 幼稚園は、普段の登降園時の他、行事などを通してお子さんの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。
- Q16 幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。
- Q17 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。
- Q18 感染対策を含めて、幼稚園内における安全が、十分に守られている。
- Q19 幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。
- Q20 感染状況を配慮した行事運営の検討が行われている。
- Q21 感染状況を配慮した保育形態（登園・リモート）等の検討が行われている。
- Q22 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。

- Q23 保護者全体のマナーが向上した。
- Q24 幼稚園は、保護者全体のマナー向上に努めている。
- Q25 学園や学園内各校との連携が取れている。
- Q26 本学園の良さを学外の人に伝えたい。
- Q27 (年中の保護者全員回答) 年中に、美術のアフタースクールがあれば参加させたかった。
- Q28 (年中、英語のアフター受講者のみ回答) 英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。
- Q29 (年長、美術のアフター受講者のみ回答) 美術のアフタースクールの活動に十分に満足している。
- Q30 (年長、英語のアフター受講者のみ回答) 英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。
- Q31 (年長、体操のアフター受講者のみ回答) 体操のアフタースクールの活動に十分に満足している。

IV. 集計結果より

1) 回答数・回答率 (在籍者は全学年 40 人)

回答数：年少	30 (31)	年中	37 (40)	年長	37 (39)	合計	104 (110)
回答率：年少	96.8%	年中	92.5%	年長	94.9%	合計	94.5%

(カッコ内数値は回答可能者数)

↑幼稚園在籍の1家族につき1回の回答というルールだった為、幼稚園内に兄弟がいる場合は弟妹クラスでは、その家族の回答権が無かった。年長は双子が1組いたため39となっている。

2) 集計結果 (満足度)

No	質問項目	満足度得点
Q1	学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。	3.62
Q2	特色ある教育活動が行われている。	3.61
Q3	幼稚園の国際教育は、十分に行われている。	3.44
Q4	幼稚園の理数系教育は十分に行われている。	2.70
Q5	自然環境を生かした教育 (園庭活動の推進) が行われている。	3.82
Q6	幼稚園は、日々の教育活動で、ICT 機器 (タブレット、プロジェクターなど) を適切に活用し保育を行っている。	2.82
Q7	幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。	3.68
Q8	様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。	3.65
Q9	伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。	3.62
Q10	丁寧な子どもの観察が、行われている。	3.78
Q11	子ども達についての情報が十分共有されている。	3.47
Q12	一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。	3.60
Q13	人間関係を大切にされた教育が行われている。	3.63
Q14	お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。	3.74
Q15	幼稚園は、普段の登降園時の他、行事などを通してお子さんの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。	3.29
Q16	幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。	3.54
Q17	お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。	3.46
Q18	感染対策を含めて、幼稚園内における安全が、十分に守られている。	3.73
Q19	幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。	3.88
Q20	感染状況を配慮した行事運営の検討が行われている。	3.66

Q21	感染状況を配慮した保育形態（登園・リモート）等の検討が行われている。	3.53
Q22	自分自身でマナーの向上に取り組んだ。	3.34
Q23	保護者全体のマナーが向上した。	3.09
Q24	幼稚園は、保護者全体のマナー向上に努めている。	3.41
Q25	学園や学園内各校との連携が取れている。	2.97
Q26	本学園の良さを学外の人に伝えたい。	3.54
Q27	（年中の保護者全員回答）年中に、美術のアフタースクールがあれば参加させたかった。	3.78
Q28	（年中、英語のアフター受講者のみ回答）英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。	3.56
Q29	（年長、美術のアフター受講者のみ回答）美術のアフタースクールの活動に十分に満足している。	3.94
Q30	（年長、英語のアフター受講者のみ回答）英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。	3.65
Q31	（年長、体操のアフター受講者のみ回答）体操のアフタースクールの活動に十分に満足している。	3.21

※ Q27～Q31 に関しては、明らかな誤答（該当学年以外の保護者の回答）は計算対象から除いた。

3) 重要度が高く、満足度が相対的に高い設問について [() 内の数値は満足度]

- Q1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。(3.62)
- Q5 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。(3.82)
- Q7 幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。(3.68)
- Q8 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。(3.65)
- Q9 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。(3.62)
- Q10 丁寧な子どもの観察が、行われている。(3.78)
- Q12 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。(3.60)
- Q13 人間関係を大切にした教育が行われている。(3.63)
- Q14 お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。(3.74)
- Q16 幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。(3.54)
- Q19 幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。(3.88)
- Q27 （年中の保護者全員回答）年中に、美術のアフタースクールがあれば参加させたかった。(3.78)
- Q29 （年長、美術のアフター受講者のみ回答）美術のアフタースクールの活動に十分に満足している。(3.94)

▶日々の幼稚園教育・保育に関わる内容の上記 13 項目にわたり、保護者の皆様から重要度・満足度ともに高い評価をいただけたことを、幼稚園として、有難く受け止めている。また、令和5年度から、年中にも美術のアフタースクールを開始した。多くの保護者の期待に応えられる形となった。

4) 重要度が高く、満足度が相対的に低い設問について [() 内の数値は満足度]

- Q11 子ども達についての情報が十分共有されている。(3.47)
- Q15 幼稚園は、普段の登降園時の他、行事などを通してお子さんの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。(3.29)

▶上記2項目で、満足度が低いとの評価になってしまったが、それぞれ、全体の評価だけでなく、全クラス3.00以上の数値となっている。令和5年度に入り、コロナ対応が変化し、行事や日々の保育における規制が緩和されていくことで、満足度をより上昇させられると考えている。

5) 重要度が低く、満足度が相対的に高い設問について [() 内の数値は満足度]

- Q2 特色ある教育活動が行われている。(3.61)
- Q18 感染対策を含めて、幼稚園内における安全が、十分に守られている。(3.73)
- Q20 感染状況を配慮した行事運営の検討が行われている。(3.66)
- Q21 感染状況を配慮した保育形態(登園・リモート)等の検討が行われている。(3.53)
- Q26 本学園の良さを学外の人に伝えたい。(3.54)
- Q30 (年長、英語のアフター受講者のみ回答) 英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。(3.65)

▶これら6項目について、重要度が低いと評価されたことから、感染対策よりも教育活動に保護者の関心が高いことが理解できる結果であったが、英語のアフタースクールに対し、重要度が低い分類になったことは日頃の保護者からの声と矛盾することもあり、どう受け止めたらいいのか今後の検討課題としたい。

6) 重要度が低く、満足度が相対的に低い設問について [() 内の数値は満足度]

- Q3 幼稚園の国際教育は、十分に行われている。(3.44)
- Q4 幼稚園の理数系教育は十分に行われている。(2.70)
- Q6 幼稚園は、日々の教育活動で、ICT機器(タブレット、プロジェクターなど)を適切に活用し保育を行っている。(2.82)
- Q17 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。(3.46)
- Q22 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。(3.34)
- Q23 保護者全体のマナーが向上した。(3.09)
- Q24 幼稚園は、保護者全体のマナー向上に努めている。(3.41)
- Q25 学園や学園内各校との連携が取れている。(2.97)
- Q28 (年中、英語のアフター受講者のみ回答) 英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。(3.56)
- Q31 (年長、体操のアフター受講者のみ回答) 体操のアフタースクールの活動に十分に満足している。(3.21)

▶上記10項目が「重要度が低い」と分類されていることを、自由記述欄の意見と合わせて、どのように受け止めたらいいか検討を要するところだが、満足度が3.0を下回っている「理数系教育」と「ICT機器の活用」については、幼稚園の取り組み姿勢や実態を保護者に伝えることに、より意識する必要があると感じている。

7) 各質問項目について

- Q1 学ぶ意欲を引き出すような教育・保育がおこなわれている。3.62

「自分で気付く」力を育てることを重要視して日々の教育・保育に取り組んでいる幼稚園として、保護者の方に、高評価をいただいたことを有難く受け止め、今後更に力を注いでいきたい。

Q2 特色ある教育活動が行われている。3.61

年中、年少では、重要度・満足度ともに高い評価に分類されたが、年長では、満足度は高いものの重要度が低く、全体として重要度が低く、満足度が高い象限に分類された。全学年から「特色ある教育」と受け止められるよう研究・実践を心がけ工夫していきたい。

Q3 幼稚園の国際教育は、十分に行われている。3.44

「重要度も満足度も低い」象限に分類されたが、満足度が一番低いクラスでも「3.28」の数値になっている。日頃の活動の充実だけでなく、その活動を保護者の方に伝える努力や工夫もここがけていきたい。

Q4 幼稚園の理数系教育は十分に行われている。2.70

全学年ともに「3.00」を下回る満足度だった。幼稚園段階での理数系教育ということ、保護者の方にイメージして貰うことへの日頃の活動報告の工夫とともに、年少、年長が「2.90」「2.86」なのに対し、年中だけが「2.38」という結果だったことを踏まえ、教育保育内容での工夫も考えていきたい。

Q5 自然環境を生かした教育（園庭活動の推進）が行われている。3.82

重要度・満足度ともに高い評価を得られた。恵まれた園庭を活用した自由遊びから、子ども達の自主的な学びを引き出していきたい。

Q6 幼稚園は、日々の教育活動で、ICT 機器（タブレット、プロジェクターなど）を適切に活用し保育を行っている。2.82

重要度が低かったことは、状況に応じての ICT 機器の活用は大事だと考えているが、幼稚園段階での教育においては、より対人関係を重視しているという幼稚園の考え方と、合致している結果と受け止められるが、このスタンスで、より満足度をあげられるよう努めたい。

Q7 幼稚園の情操・教養教育は十分に行われている。3.68

「3.93」の満足度のクラスもあり、安定した評価が得られた。今後も、この評価を維持できるよう努めていきたい。

Q8 様々な機会を通して本物に触れる教育が行われている。3.65

全体的には、重要度・満足度ともに高い評価を得られたが、「4.00」のクラス（年少）もある一方「3.29」のクラス（年長）もある。高学年になるに従い評価が下がっている傾向が確実に読み取れる数値なので、慎重に検討していきたい。

Q9 伝統文化や四季の行事を生かした教育が行われている。3.62

前項目のポイントほどではないが、学年が進行に伴い満足度が下がる結果となった。コロナ禍で保護者との共有が難しかった面もあるが、この結果をカリキュラム内容の検討に活かしていきたい。

Q10 丁寧な子どもの観察が、行われている。3.78

全学年ともに高評価となった。この数値に油断することなく、今後も少人数教育の成果を出せるよう取り組んでいきたい。

Q11 子ども達についての情報が十分共有されている。3.47

「満足度が相対的に低い」と分類された。幼稚園としては、特に大事に考えている項目なので慎重に捉えたいと考えている。満足度の数値は、満足度が一番低いクラスで「3.29」高いクラスで「3.65」という結果なので、「とてもそう思う」という評価でなかった理由を検討していきたい。

Q12 一人ひとりの子どもの理解に基づく個に応じた教育がなされている。3.60

個性尊重を大事にする教育に対して、保護者から高評価を得られたことを嬉しく受け止めるとともに、より高い評価を得られるよう気を引き締めて取り組んでいきたい。

Q13 人間関係を大切にされた教育が行われている。3.63

対人関係の成長を大切に考える幼稚園教育において、この項目でも高評価を得られたことを有難く受け止め、より高い評価を得られるよう教員一人ひとりの教育能力の向上を考えていきたい。

Q14 お子さんは、幼稚園で良い友達関係を築いている。3.74

全学年ともに、「3.70」を超える高評価だった。引き続き園児一人ひとりの気持ちを大事に寄り添いながら、子ども達が友達関係が築けることを大切に教職員全員で関わっていきたい。

Q15 幼稚園は、普段の登降園時の他、行事などを通してお子さんの幼稚園生活の様子が分かるようにしている。3.29

全クラス満足度の数値が「3.00」以上ではあったが、全体として3点代前半だった。コロナ禍で行事だけでなく保育活動に関しても制約が多く、参観の機会が少なかった為と考えられる。令和5年度からは、コロナ対応も緩和傾向になるので、保護者の方から、より満足して貰えるよう新たな対応を検討していきたい。

Q16 幼稚園行事は、お子さんの幼稚園生活の良い発表の場になっている。3.54

コロナ禍で、以前の様に子ども達の発表を保護者の方に直接参観して貰える機会が少なくなってしまうことから、最高で「4.00」最低が「3.18」と評価が割れてしまったように感じる。コロナ対応が緩和される状況に応じて参観機会を増やし、子ども達にとって「よい発表の場」になっていることを保護者の方にも実感して貰えるようにしていきたい。

Q17 お子さんの心身の健康について、気軽に教員、カウンセラー等と相談できる。3.46

重要度・満足度ともに低い項目と分類された。重要度が低いということは、子ども達の「心身の健康」について心配している保護者が少ないと考えられる。また、満足度は、「3.11」から「3.60」で安定しており、現状を維持できるよう対応していきたい。

Q18 感染対策を含めて、幼稚園内における安全が、十分に守られている。3.73

重要度が低く満足度が高い項目として分類された。手を抜くことなく感染対策を続けていきたい。

Q19 幼稚園の施設・設備は学習環境面において満足できる環境にある。3.88

全学年、重要度・満足度ともに高い項目として分類され、特に満足度は「3.90」以上のクラスが、4クラスと高い評価を得た。

Q20 感染状況を配慮した行事運営の検討が行われている。3.66

全学年ともに高い満足度の評価を得られたが、保護者の方にとっては重要度がさほど高くないということがわかった。今後、感染対策も緩和傾向になっていくこともあるので、より満足度が高まっていくことと思うが、この数値を意識して行事運営の検討をしていきたい。

Q21 感染状況を配慮した保育形態（登園・リモート）等の検討が行われている。3.53

幸いにも昨年度（令和4年度）は、リモート保育に切り替えることなく、対面で対応することができた。この項目への重要度を高くとらえている保護者は多くないが、幼稚園の対応に満足している保護者が多いことを受け止め、今後の対応を検討していきたい。

Q22 自分自身でマナーの向上に取り組んだ。3.34

小さい子どもにとって周囲の大人の行動の影響力は重要で、その保護者が自分自身の行動においてマナーの向上に取り組んだという意識が高いことが確認できたことを大切に、今後も保護者の方と一緒に子ども達の教育に取り組んでいきたい。

Q23 保護者全体のマナーが向上した。3.09

前項目と比較して各学年ともに低い評価になったということは、他者のマナーに対してマイナス評価をしている保護者が多いということと受け止め、幼稚園として対策を考えていきたい。

Q24 幼稚園は、保護者全体のマナー向上に努めている。3.41

前々項目・全項目に比較し、高い評価を得られたことは有難いことだが、上記2項目においても高評価が得られるような対応を引き続き、幼稚園としても検討していきたい。

Q25 学園や学園内各校との連携が取れている。2.97

満足度が「3.00」を下回ってしまったことには、コロナ禍になりストップしてしまった学園他校との連携が止まってしまったこともあると考えられるので、今後、復活も含め検討していきたい。

Q26 本学園の良さを学外の人に伝えたい。3.54

重要度が低いと評価されたが、満足度は全体として高い評価を得られたことを大切に、より高い評価が得られるように検討したい。

Q27 (年中の保護者全員回答) 年中に、美術のアフタースクールがあれば参加させたかった。3.78

毎年、保護者からの希望も多かったことから、令和5年度より、年中にも美術のアフタースクールを開始し、この要望に応えた形となった。

Q28 (年中、英語のアフター受講者のみ回答) 英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。3.56

重要度・満足度ともに高い評価だった。継続して受講となる令和5年度の受講希望者が多いことから満足度が高いことが証明されている。引き続き、この数値を維持できるよう対応していきたい。

Q29 (年長、美術のアフター受講者のみ回答) 美術のアフタースクールの活動に十分に満足している。3.94

ほとんどの受講者から高い評価を得た。令和5年度からは講師交替となるが、この数値を維持できるよう対応していきたい。

Q30 (年長、英語のアフター受講者のみ回答) 英語のアフタースクールの活動に十分に満足している。3.65

子ども達が楽しんで英語と関わっていることが、この数値からも受け止められ、引き続き英語活動の充実に努めていきたい。

Q31 (年長、体操のアフター受講者のみ回答) 体操のアフタースクールの活動に十分に満足している。3.21

コロナ禍でストップしていた体操のアフタースクールは、2学期以降の再開となった。美術、英語と比較すると満足度の数値は低いものの、「3.21」は決して低い評価ではないと受け止めている。コロナ前の受講生数と比較して、受講生の人数も2コースにするほど増加し、保護者から高評価を得ていると捉えている。

V. まとめ

31項目のうち満足度が「3.00」を下回った項目は3項目に留めることができたが、自由記述から、コロナ禍で行事や子ども達の日常生活の参観機会が減少したことへの保護者の思いを知ることができる。このことは、5月以降、コロナが2類から5類になることの対応で、自然と解消していくと考えられる。

令和5年度には、より保護者からの満足度の評価をあげられるよう幼稚園教育の内容を検討し、カリキュラムの内容の精選だけでなく、一人ひとりの教員が自己研鑽に努め、幼稚園教育の質の向上に努めたい。

以上

学校関係者評価委員会 報告

(令和4(2022)年度学校評価アンケート 幼稚園の自己評価説明を受けて)

今年度は、幼稚園の重点目標に対する自己評価のみならず、全学共通の学校評価が実施された。自己評価委員会の報告にある通り、プラスの評価(3点または4点の評点により、平均点が3点を超えているもの)が31の設問中29に上り、日頃、先生方がいかに園児のことを第一に考え、見守り導いてくださっているのかが可視化されたと受け止めた。幼稚園は回答数が110(回答実数は104)と少なく(在籍園児が複数いても、ひと家庭で1回答のため)ひと家庭の評価が全体に与えるインパクトが小さくない。報告では『重要度が高く、満足度が相対的に低い設問』と分類されていても、満足度の平均点は、3を優に超えていることなどから、アンケート結果の重要度と満足度を踏まえつつ、分類にのみ影響されることなく、満足度の更なる向上に期待したい。

アンケートの設問をテーマによって以下の通り大別し、それぞれの所感を記す。

【教育保育について Q.1~Q.13】

設問全体に最も大きな割合を占める“教育保育”について13項目の平均点は、約3.50であった。平均点が3を下回っているQ.4と、Q.6について、個別にみると、いずれも、理数系教育に関する設問である。Q4. に関していえば、年度の初めに配られる、幼稚園における理数系教育の学校目標を保護者の側がどの程度理解し、その内容に基づいた理数系教育のあり方への評価をしているのか、心許ない印象が否めない。理数系教育のひとつ目にあげられる『論理的思考』(・自分の主張を伝える力をつける。・相手の考えを聞く力を養う。・解決策を考える力を育てる。・計画的に物事に取り組む力を育てる。の4点)は、日々の保育や行事への取り組みにおいて、確実に年少より年中、年中より年長と年を追うごとに身につけていることが認識できるはずである。しかしながら、多くの保護者にとって、理数系教育という言葉と、この4点を結びつけることが困難で、この数値になっているものと考察する。

また、Q.6に関して、全学共通の設問ゆえにこの問いが存在するが、重要度が低いとの回答が多く、幼稚園段階の教育については、ICT機器を適切に使用することよりも、対人関係を重視する幼稚園の在り方に、同意が得られていることの現れ(したがって数値は高くない)であると考えられる。数字だけを見ると、満足度が低いものと区別がつきにくく、ことの本質が見えにくいと感じられた。

【幼稚園生活 Q.14~Q.16】

幼稚園生活について3項目の平均点は、約3.52であった。3項目の平均点を下回ったQ.15に関しては、自己評価委員会の見解の通り、コロナ禍で、保育参観や、ほかの行事にも制約が多かったための数字と考える。R.5年度は、登降園の在り方も見直され、幼稚園生活の様子が見て取れるようになっていると推察される。

【環境整備 Q. 17～Q. 21】

環境整備について5項目の平均点は、約3.65であった。入園の志望動機にもなる緑豊かで起伏に富んだ園庭があるというだけでなく、R.4年度は、リモート保育や分散登園になることなく、通年登園できたことで、全体として保護者の満足度は高かったものと思われる。また、Q.17に関して、重要度が高くないと回答していることから、「心身の健康」について心配している保護者が少ないことがうかがわれる。これは、Q.14の、全学年評価が3.7を超えていることから、子ども達が楽しく通い、保護者が安心して預けられていることの表れであると考えられる。

【保護者マナーQ. 22～Q. 24】

保護者マナーについて3項目の平均点は、3.28であった。学園の中でも、保護者が毎日顔を合わせるのは幼稚園だけで、小さな子ども達への影響も大きいため、マナーへの意識は低くないと考えられる。しかしながら、Q.22よりQ.23の数値が低いことから、他者のマナーに対して、厳しい見方をしている保護者も多いことが推察される。保護者同志の付き合いも、先が長いことから、保護者が保護者を注意するのではなく、園から注意喚起をしていただくことで、全体のマナー向上につながっていると思われる。保護者としては恥ずかしくもあるが、ありがたく、継続して行っていただきたい。

【その他 Q. 25～Q. 31】

項目が多岐にわたるので、平均点は省略する。Q.25は、満足度が3を下回った。3年ぶりに開催していただいた幼初合同運動会のスケジュールが、初等学校と幼稚園で同時に決定されていなかったことが、兄弟姉妹が初等学校にいるご家庭からわかってしまったことに起因するものと思われる。また、初等学校の児童数に対して、幼稚園に弟妹がいる割合は多くないが、幼稚園は母数が少ないことから、兄姉が初等学校にいる割合が高く、保護者会や懇談会など、クラス単位のものは、時期的な偏りもあるため、重なってしまうと、もう少し配慮ができないものかを感じる保護者が少なからずいることがうかがわれる。

一方で、運動会や縁日の会でグラウンドを、クリスマス会のために楽器をお借りできるなど、学園ならではのご配慮には大変感謝している。

Q.27～31はアフタースクールに関するもので、いずれも高い満足度を示している。R.5年度から、年中にも美術のアフタースクールが開設されたのは、保護者からの要望によるもので、常により良い保育のあり方を模索し、実行に移す先生方の姿勢に感謝するものである。

以上